

2019 年 6 月 28 日

各 位

株式会社 宮崎銀行

「お客さま本位の業務運営に係る方針」に基づく成果指標の公表について

株式会社宮崎銀行(頭取 平野 亘也)は、お客さま本位の資産運用コンサルティングを強化するため、「お客さま本位の業務運営に係る方針」を制定しております。

このたび、2018 年度の本方針に基づく成果指標をとりまとめましたので公表いたします。なお、今回は、2018 年 6 月 29 日に金融庁が公開した「投資信託の販売会社における比較可能な共通 KPI について」に基づき、新たな成果指標を含めて公表しております。

当行は今後も、お客さまのニーズに合わせた最適なご提案や、わかりやすい情報提供等に努めてまいります。

記

成果指標

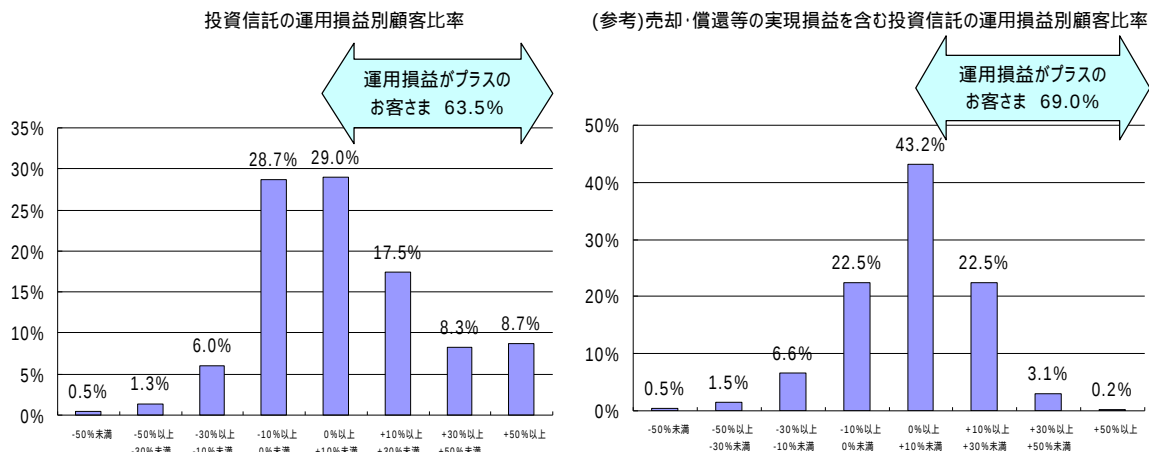
1. 運用損益別顧客比率
2. 投資信託預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン
3. 預り資産残高推移
4. 投資信託コア商品比率
5. 投資信託平均保有年数
6. 投信販売に占める積立投信の割合
7. 積立投信の金額・件数推移
8. NISA 残高・NISA 残有口座数推移
9. 投資信託の販売上位商品
10. 生命保険の販売上位商品
11. お客さまセミナー開催回数
12. マネーコンサルタント認定者数推移

詳細については、2 頁目以降に記載しています。

本件に関するお問い合わせ先
株式会社宮崎銀行 マネーコンサルティング部
担当：河山・坂元
TEL：0985-32-8350

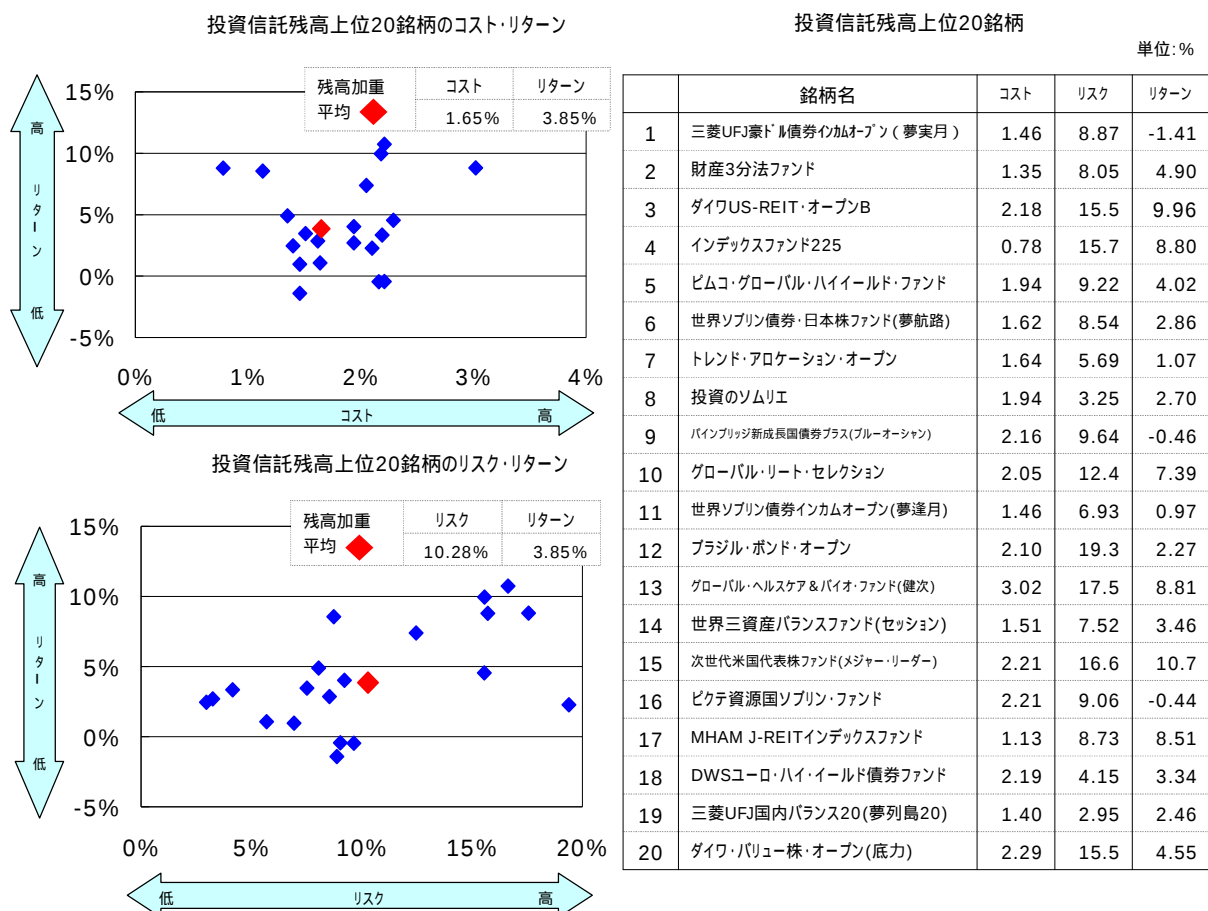
1. 運用損益別顧客比率

2019年3月末時点で投資信託を保有されているお客さまのうち、63.5%のお客さまの運用損益がプラスとなりました。また、過去に売却・償還した運用損益を加味した場合、69.0%のお客さまの運用損益がプラスとなりました。引き続きリターンが期待できる適切な投資信託をご案内し、適切なポートフォリオ提案を行ってまいります。



2. 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン

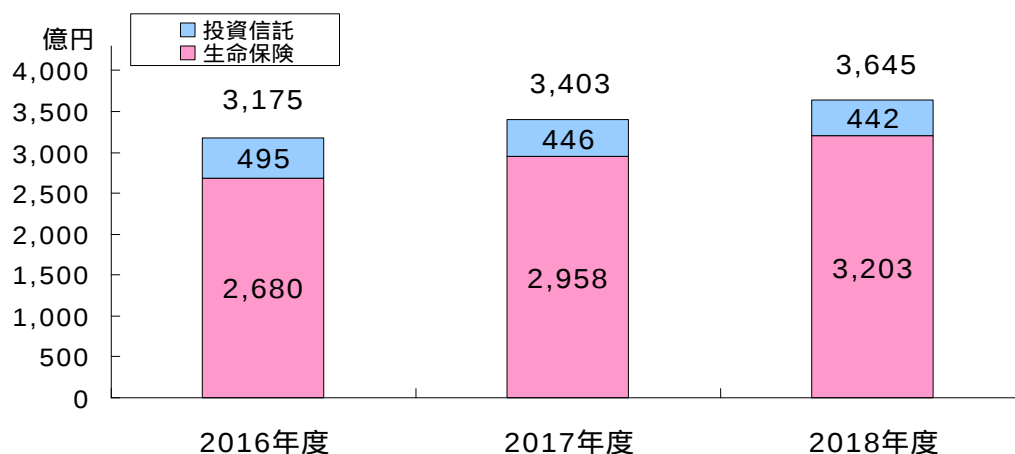
投資信託残高上位20銘柄のうち、15銘柄(75%)がコストを上回るリターンを計上しています。



*リターン = 過去5年間のトータルリターン(年率換算) / リスク = 過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)

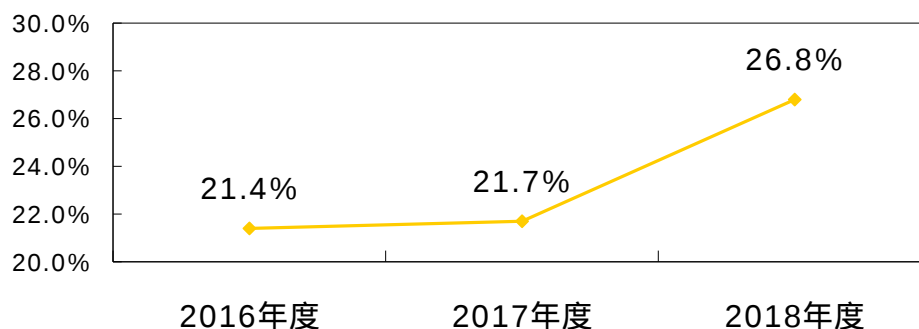
3. 預り資産残高推移

2018年度の投資信託の残高につきましては、ほぼ横ばいにて推移しましたが、保険の販売額が増加した結果、残高は242億円増加し、3,645億円となりました。



4. 投資信託コア商品比率

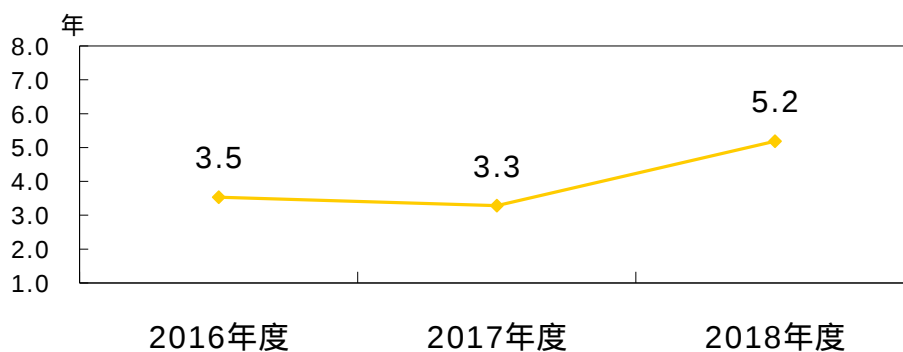
2018年度はバランス型ファンドが販売上位となったことから、コア商品比率が上昇しました。



*コア商品・・・ バランス型商品を中心とした中長期運用に適した商品

5. 投資信託平均保有年数

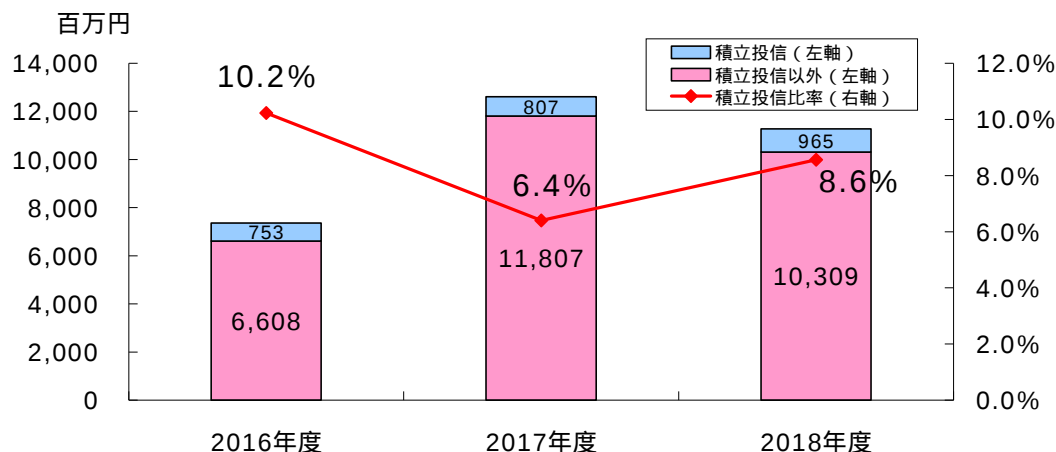
2018年度は長期の資産形成に適した「バランス型ファンド」の販売が好調であったことと、マーケットの影響もあり、解約金額が前年度比で減少しました。これにより保有年数は上昇しました。



*平均保有年数 = 投資信託平均残高 ÷ 年間解約金額

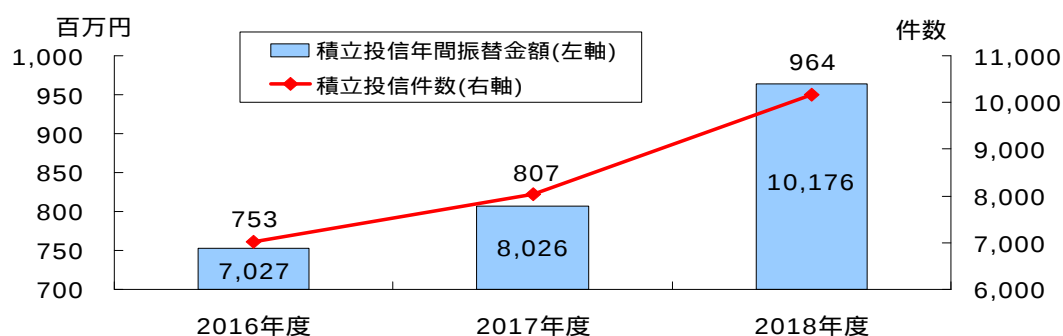
6. 投信販売に占める積立投信の割合

2018年度はマーケットの影響もあり、投資信託販売額は前年度比で減少しましたが、その中で積立投信による販売額が上昇した結果、投資信託販売における積立投信の割合は、2.2ポイント上昇しました。



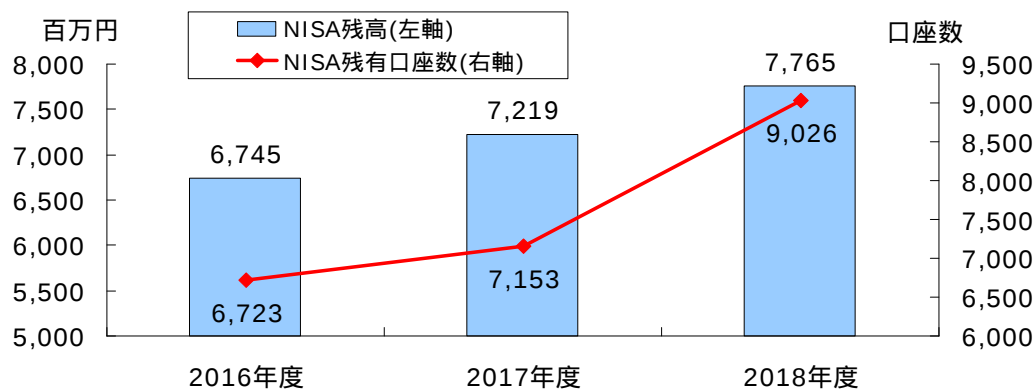
7. 積立投信の金額・件数推移

資産形成層のお客さまに対し、職域セミナーを通して積立投信をご提案した結果、金額、件数ともに前年度から大きく上昇しました。



8. NISA残高・NISA残有口座数推移

職域セミナーでのつみたてNISAのご提案や各種セミナーにより、NISA活用の有効性などをご紹介した結果、NISA残高、NISA残有口座数とも上昇しました。



9. 投資信託の販売上位商品

2018年度は「貯蓄から資産形成へ」を促進するため、低リスクのバランスファンドによる長期投資を推進した結果、バランス型ファンドが販売上位となりました。また年度前半はマーケットが好調であったため、日本株のファンドも販売好調でした。

	銘柄名	投資対象	分配周期	販売額 (百万円)	販売シェア
1	財産3分法ファンド	内外バランス	毎月	1,209	10.7%
2	成長応援日本株ファンド(匠のワザ)	国内株式	年2回	1,183	10.5%
3	投資のソムリエ	内外バランス	年2回	974	8.6%
4	インデックスファンド225	国内株式	年1回	930	8.2%
5	ゴールドマン・サックス社債 国際分散投資戦略(プライムOne)シリーズ	海外債券	年1回	846	7.5%
計	-	-	-	5,142	45.6%

10. 生命保険の販売上位商品

2018年度の一時払い保険のランキングでは、国内のマイナス金利等の影響を受けまして、外貨建ての一時払終身保険が好調でした。また、平準払い保険のランキングでは、がん保険が販売上位となっています。

	一時払い保険	商品種類	通貨	販売額 (百万円)	販売 シェア		平準払い保険	商品種類	通貨	販売 件数	販売 シェア
1	サニーガーデンEX	定額終身	米ドル	6,051	26.0%	1	Days 1	がん保険	日本円	288	35.6%
2	ロングドリームGOLD2	定額終身	米ドル	2,463	10.6%	2	ちゃんと応える 医療保険EVER	医療保険	日本円	153	18.9%
3	プレミアカレンシー・プラス2	定額年金	米ドル	2,434	10.5%	3	Flexi S	医療保険	日本円	85	10.5%
4	プレミアプレゼント	定額終身	米ドル	1,575	6.8%	4	FlexiGold	医療保険	日本円	80	9.9%
5	ビーウィズユープラス	定額終身	米ドル	1,400	6.0%	5	新CURE	医療保険	日本円	32	4.0%
計	-	-	-	13,923	59.8%	計	-	-	-	638	78.8%

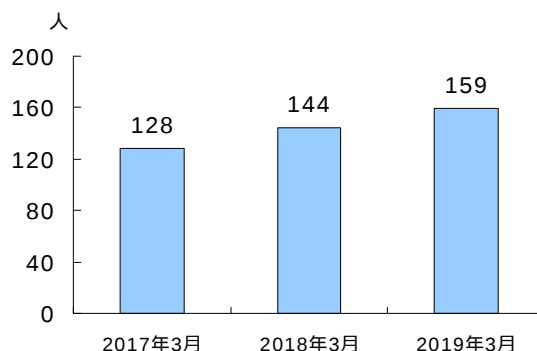
11. お客さまセミナー開催回数

資産形成層のお客さまに対して、職域セミナーを開催しました。また、定期的に開催している「運用報告・経済環境セミナー」に加え、就学者や女性、新社会人向けのセミナーも開催し、様々な世代の金融リテラシー向上に向け取り組んでいます。

内容	回数
お客さまセミナー全体	189
(うち、職域セミナー)	150
(うち、運用報告・経済環境セミナー)	30
(うち、キッズセミナー)	6
(うち、女性向けセミナー)	2
(うち、新社会人向けセミナー)	1

12. マネーコンサルタント認定者推移

当行の人財育成制度に則して適切なコンプライアンス、および商品知識を兼ね備え、お客さまに対し適切なポートフォリオ提案が行える「マネーコンサルタント」を育成・認定しております。2019年3月末現在では159名が在籍しています。



以上